

新しい奨励品種「てんこもり」について

1 品種特性

- 中生品種。出穂期は「さとじまん」と比較して同程度（8月中旬頃）である。
- 収量は「さとじまん」と比較して同等からやや少ない（512kg/10a程度）。
- 玄米の外観品質・食味は「さとじまん」より優れている。
- 穂数が多くなるが、耐倒伏性は「強」、穂発芽性は「難」で、「さとじまん」並みであり、栽培しやすい。

2 栽培上の留意点

- 基本的に「さとじまん」に準じた栽培を行う。
- 田植は5月下旬～6月中旬、収穫は9月下旬～10月上旬。
- 「さとじまん」より穂数が多いことから、株間（18cm程度）は広めに確保する。
- 穂数が多いことから、ムレやすく病気が拡がりやすいため、紋枯病の発生に注意する。

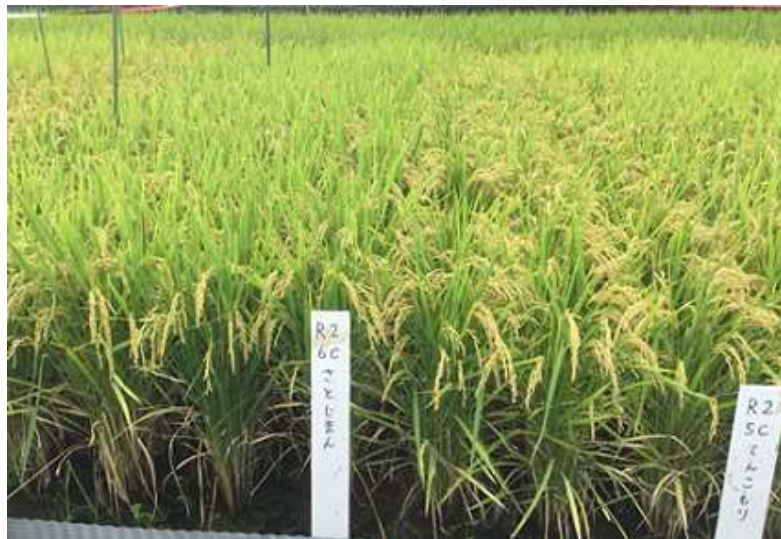


写真1 「てんこもり」の栽培の様子
(右が「てんこもり」（穂数が多い）、左が「さとじまん」。)



写真2 「てんこもり」の粒形